

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 平成23年11月14日

【四半期会計期間】 第75期第2四半期(自平成23年7月1日至平成23年9月30日)

【会社名】 瀧上工業株式会社

【英訳名】 The Takigami Steel Construction Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 瀧上 晶 義

【本店の所在の場所】 名古屋市中川区清川町二丁目1番地

【電話番号】 052 - 351 - 2211(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役兼執行役員
管理本部長 山本 敏 哉
兼生産本部管掌

【最寄りの連絡場所】 名古屋市中川区清川町二丁目1番地

【電話番号】 052 - 351 - 2211(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役兼執行役員
管理本部長 山本 敏 哉
兼生産本部管掌

【縦覧に供する場所】 瀧上工業株式会社東京支店
(東京都中央区湊一丁目9番9号)

瀧上工業株式会社大阪支店
(大阪市西区北堀江二丁目10番19号)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

株式会社名古屋証券取引所
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第74期 第2四半期 連結累計期間		第75期 第2四半期 連結累計期間		第74期	
		自 至	平成22年4月1日 平成22年9月30日	自 至	平成23年4月1日 平成23年9月30日	自 至	平成22年4月1日 平成23年3月31日
売上高	(百万円)		6,257		4,115		11,307
経常利益又は経常損失()	(百万円)		322		120		441
四半期(当期)純利益 又は四半期純損失()	(百万円)		310		99		393
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)		343		669		188
純資産額	(百万円)		24,423		23,756		24,577
総資産額	(百万円)		29,473		27,709		29,316
1株当たり四半期(当期) 純利益金額又は1株当たり 四半期純損失金額()	(円)		12.68		4.07		16.10
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)						
自己資本比率	(%)		82.0		84.8		82.9
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)		1,448		988		368
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)		469		761		952
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)		158		158		165
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)		8,399		6,898		6,828

回次		第74期 第2四半期 連結会計期間		第75期 第2四半期 連結会計期間	
		自 至	平成22年7月1日 平成22年9月30日	自 至	平成23年7月1日 平成23年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 又は1株当たり四半期純損失 金額()	(円)		7.67		0.73

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第74期第2四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災からの復興に取り組むなか、生産、輸出及び個人消費等に持ち直し感が見られるなど、一定の回復基調は見られましたが、一方では、急激な円高の進行や海外金融情勢の不安などが存在し、景気の先行きは依然として不透明な中で推移しました。

鋼構造物製造事業におきましては、公共投資の国及び地方の当初予算ベースでは前年を下回る状況にあるなかで、一部においては補正予算の措置が講じられるなど、今後の押し上げ効果には若干の期待が持たれます。しかし、全体としては依然として低調な状態にあるため、受注環境は引き続き厳しい状況にあり、当第2四半期連結累計期間の総受注高は27億7千万円(前年同期比6億円増・27.8%増)となりました。

また、損益につきましては、引き続き受注確保に全力で取り組んでおりますが、当第2四半期連結累計期間は、手持工事量の減少による生産量の落ち込みや工事採算性の悪化等により、完成工事高37億円(前年同期比21億6千万円減・36.9%減)、営業損失2億6千万円(前年同期は1億6千万円の営業利益)となりました。

不動産賃貸事業につきましては、賃貸需要の低迷による既契約の部分的減少はありましたが、期間損益は堅調に推移したため、売上高2億5千万円(前年同期比1千万円増・7.2%増)、営業利益1億6千万円(前年同期比2千万円増・20.4%増)となりました。

上記の要因により、当第2四半期連結累計期間における連結損益は、その他を含めまして、完成工事高41億1千万円(前年同期比21億4千万円減・34.2%減)、営業損失2億1千万円(前年同期は1億6千万円の営業利益)、経常損失1億2千万円(前年同期は3億2千万円の経常利益)、四半期純損失9千万円(前年同期は3億1千万円の四半期純利益)となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の財政状態につきましては、総資産は、277億円(前連結会計年度末比16億円減・5.5%減)となりました。

流動資産は、完成工事高の減少に伴う完成工事未収入金の減少などにより130億7千万円(前連結会計年度末比14億6千万円減・10.1%減)、固定資産は、当社半田工場の設備投資に伴う増加はありましたが、株式市場の低迷に伴う時価評価額の減少などにより146億3千万円(前連結会計年度末比1億3千万円減・0.9%減)となりました。

負債は39億5千万円(前連結会計年度末比7億8千万円減・16.6%減)となりました。流動負債は、完成工事高や手持工事の減少から工事未払金や未成工事受入金が減少し、19億7千万円(前連結会計年度末比3億9千万円減・16.7%減)、固定負債は、投資有価証券の時価評価額の減少に伴う繰延税金負債の減少により19億7千万円(前連結会計年度末比3億9千万円減・16.5%減)となりました。

純資産は、その他有価証券評価差額金の減少及び四半期純損失の計上により237億5千万円(前連結会計年度末比8億2千万円減・3.3%減)となりました。この結果、自己資本比率は84.8%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次の通りであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果は、仕入債務及び未成工事受入金等の減少はありましたが、一方で売上債権の減少等により、9億8千万円の資金収入となり、前年同期比では4億5千万円(31.7%)の収入減少となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果は、投資有価証券の取得による支出及び定期預金の預入による支出等により、7億6千万円の資金支出となり、前年同期比では2億9千万円(62.2%)の支出増加となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果は、配当金の支払額等により、1億5千万円の資金支出となり、前年同期比では0百万円(0.1%)の支出減少となりました。

(現金及び現金同等物)

上記の要因により、現金及び現金同等物四半期末残高は68億9千万円となり、前年同期末比では15億円(17.9%)の資金減少となりました。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は3百万円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	71,751,000
計	71,751,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成23年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成23年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	26,976,000	26,976,000	東京証券取引所 (市場第二部) 名古屋証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は 1,000株で あります。
計	26,976,000	26,976,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成23年9月30日		26,976		1,361		389

(6) 【大株主の状況】

平成23年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
丸定産業株式会社	愛知県東海市南柴田町ホノ割213-8	2,512	9.31
バンクオブニューヨーク ジーシー エム クライアント アカウ ンツ ジーピー アールイーシー アイティーアイシー (常任代理人 株式会社三菱東京 UFJ銀行)	CITIGROUP CENTRE CANADASQUARE CANARY WHARF LONDON E14 5LB, UNITED KINGDOM (東京都千代田区丸の内2-7-1)	1,927	7.14
中部レベラー鋼業株式会社	愛知県東海市南柴田町ホノ割213-8	1,557	5.77
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	1,188	4.40
瀧上 茂	名古屋市天白区	1,121	4.15
瀧上賢一	名古屋市昭和区	1,121	4.15
丸定運輸株式会社	愛知県東海市南柴田町ホノ割213-8	1,003	3.72
株式会社メタルワン	東京都港区芝3-23-1	970	3.59
瀧上建設興業株式会社	名古屋市中川区清川町2-1	859	3.18
株式会社瀧上工作所	愛知県半田市神明町1-1	805	2.98
計		13,068	48.44

(注) 1 当社所有の自己株式2,071千株(7.67%)は上記から除いております。

2 シティグループ・グローバル・マーケッツ・フィナンシャル・プロダクト及びシティグループ・グローバ
 ル・マーケッツ・リミテッドから平成23年7月5日付で関東財務局長に提出された当社株式に係る大量保有
 報告書の変更報告書により、平成23年6月28日現在で以下の株式を所有している旨の報告を受けておりま
 す。当社として当第2四半期会計期間末における実質所有株式数の確認ができておりません。

なお、大量保有報告書の変更報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
シティグループ・グローバル ・マーケッツ・フィナンシャ ル・プロダクト (Citigroup Global Markets Financial Products LLC)	アメリカ合衆国デラウェア州ウィルミントン 市オレンジストリート1209、コーポレ ーショントラストセンター		
シティグループ・グローバル ・マーケッツ・リミテッド (Citigroup Global Markets Limited)	英国ロンドンカナリーワーフカナダスクエア シティグループセンター	1,939	7.19

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,071,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 24,616,000	24,616	
単元未満株式	普通株式 289,000		
発行済株式総数	26,976,000		
総株主の議決権		24,616	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式412株が含まれております。

【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 瀧上工業株式会社	名古屋市中川区清川町 二丁目1番地	2,071,000		2,071,000	7.67
計		2,071,000		2,071,000	7.67

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づき、同規則及び「建設業法施行規則」(昭和24年建設省令第14号)に準じて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成23年7月1日から平成23年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、五十鈴監査法人により四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
 (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	7,498	7,798
受取手形・完成工事未収入金等	5,972	4,294
有価証券	699	599
商品及び製品	42	41
未成工事支出金	141	163
材料貯蔵品	54	54
その他	138	126
貸倒引当金	0	0
流動資産合計	14,547	13,078
固定資産		
有形固定資産	4,504	4,749
無形固定資産		
ソフトウェア	29	27
その他	12	10
無形固定資産合計	42	38
投資その他の資産		
投資有価証券	9,512	8,832
長期預金	500	800
その他	209	210
投資その他の資産合計	10,222	9,843
固定資産合計	14,768	14,631
資産合計	29,316	27,709
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	1,323	1,136
未成工事受入金	392	127
未払法人税等	9	8
工事損失引当金	257	236
引当金	130	134
その他	259	333
流動負債合計	2,372	1,976
固定負債		
退職給付引当金	573	578
引当金	140	141
繰延税金負債	1,487	1,095
その他	164	160
固定負債合計	2,365	1,975
負債合計	4,738	3,952

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,361	1,361
資本剰余金	389	389
利益剰余金	21,850	21,601
自己株式	1,426	1,426
株主資本合計	22,174	21,925
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,141	1,568
その他の包括利益累計額合計	2,141	1,568
少数株主持分	261	262
純資産合計	24,577	23,756
負債純資産合計	29,316	27,709

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
完成工事高	6,257	4,115
完成工事原価	5,649	3,913
完成工事総利益	608	201
販売費及び一般管理費	1 439	1 418
営業利益又は営業損失()	169	216
営業外収益		
受取利息	23	19
受取配当金	69	78
賃貸収入	7	7
持分法による投資利益	21	-
投資有価証券評価益	26	-
その他	9	10
営業外収益合計	158	116
営業外費用		
為替差損	1	1
自己株式の取得に関する付随費用	3	2
賃貸費用	1	1
持分法による投資損失	-	10
投資有価証券評価損	-	4
営業外費用合計	6	19
経常利益又は経常損失()	322	120
特別利益		
会員権売却益	4	-
清算配当金	-	24
その他	0	-
特別利益合計	4	24
特別損失		
固定資産売却損	3	-
投資有価証券評価損	-	0
退職給付制度終了損	11	-
特別損失合計	14	0
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	312	96
法人税、住民税及び事業税	2	6
法人税等調整額	6	5
法人税等合計	3	0
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	315	97
少数株主利益	5	2
四半期純利益又は四半期純損失()	310	99

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	315	97
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	652	569
持分法適用会社に対する持分相当額	6	2
その他の包括利益合計	659	572
四半期包括利益	343	669
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	347	671
少数株主に係る四半期包括利益	4	2

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	312	96
減価償却費	191	193
貸倒引当金の増減額(は減少)	0	0
賞与引当金の増減額(は減少)	9	3
役員賞与引当金の増減額(は減少)	15	-
工事損失引当金の増減額(は減少)	66	20
退職給付引当金の増減額(は減少)	5	4
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	9	1
受取利息及び受取配当金	93	98
持分法による投資損益(は益)	21	10
自己株式の取得に関する付随費用	3	2
固定資産売却損益(は益)	3	-
投資有価証券評価損益(は益)	26	5
清算配当金	-	24
会員権売却損益(は益)	4	-
売上債権の増減額(は増加)	1,074	1,678
たな卸資産の増減額(は増加)	608	21
仕入債務の増減額(は減少)	471	284
未成工事受入金の増減額(は減少)	90	265
未払消費税等の増減額(は減少)	26	97
その他	67	7
小計	1,457	998
法人税等の支払額	8	9
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,448	988
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	500	170
定期預金の預入による支出	500	700
利息及び配当金の受取額	97	101
有価証券の売却及び償還による収入	500	700
有形固定資産の売却による収入	5	-
有形固定資産の取得による支出	59	153
投資有価証券の売却及び償還による収入	-	300
投資有価証券の取得による支出	1,003	1,203
清算配当金による収入	-	26
会員権の売却による収入	5	-
その他	15	3
投資活動によるキャッシュ・フロー	469	761

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	3	2
配当金の支払額	148	149
少数株主への配当金の支払額	2	2
その他	3	3
財務活動によるキャッシュ・フロー	158	158
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	820	69
現金及び現金同等物の期首残高	7,578	6,828
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 8,399	1 6,898

【追加情報】

当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日至平成23年9月30日)
第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
1	偶発債務 当社は、先般の鋼橋上部工事の入札談合に関して、平成20年6月に独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構より損害賠償の請求を受け、当該請求内容を慎重に精査した結果、当社受注物件に対応する損害賠償請求のうち、一部の支払いを留保しております。これに伴い、当社は、留保分及び支払いに応じない事業会社の連帯債務の損害賠償を求めて東京高等裁判所に提訴されておりますが、現在係争中であり、 当社は、関連会社である有限責任会社Universal Steel Fabrication Vina-Japan(ベトナム)に対する契約履行保証及び前払金保証に伴い、銀行が保証状を発行したことに対する保証13百万円(35億1千万ベトナムドン)を行っております。なお、上記の保証額は、自社の負担額を記載しております。	偶発債務 当社は、先般の鋼橋上部工事の入札談合に関して、平成20年6月に独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構より損害賠償の請求を受け、当該請求内容を慎重に精査した結果、当社受注物件に対応する損害賠償請求のうち、一部の支払いを留保しております。これに伴い、当社は、留保分及び支払いに応じない事業会社の連帯債務の損害賠償を求めて東京高等裁判所に提訴されておりますが、現在係争中であり、 当社は、関連会社である有限責任会社Universal Steel Fabrication Vina-Japan(ベトナム)に対する契約履行保証及び前払金保証に伴い、銀行が保証状を発行したことに対する保証23百万円(35億1千万ベトナムドン及び10百万円)を行っております。なお、上記の保証額は、自社の負担額を記載しております。

(四半期連結損益計算書関係)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日至平成23年9月30日)
1	販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次の通りであります。 給料賃金 159 百万円 従業員賞与引当金繰入額 17 百万円 退職給付費用 5 百万円 役員退職慰労引当金繰入額 12 百万円	販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次の通りであります。 給料賃金 151 百万円 従業員賞与引当金繰入額 18 百万円 退職給付費用 6 百万円 役員退職慰労引当金繰入額 7 百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日至平成23年9月30日)
1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 現金預金 8,569 百万円 預入期間が3か月超の定期預金 170 百万円 現金及び現金同等物 8,399 百万円	1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 現金預金 7,798 百万円 預入期間が3か月超の定期預金 900 百万円 現金及び現金同等物 6,898 百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月29日 定時株主総会	普通株式	149	6.00	平成22年3月31日	平成22年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動
該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	149	6.00	平成23年3月31日	平成23年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	鋼構造物 製造事業	不動産 賃貸事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	5,870	234	6,104	153	6,257		6,257
セグメント間の内部 売上高又は振替高				137	137	137	
計	5,870	234	6,104	291	6,395	137	6,257
セグメント利益 又は損失()	165	134	300	2	298	128	169

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、鋸螺釘類製造事業を含んでおりません。

2 調整額の「セグメント間の内部売上高又は振替高」には、セグメント間取引の消去額 137百万円及び「セグメント利益」には、親会社本社の総務部門等管理部門に係る全社費用 129百万円等を含んでおります。

3 セグメント利益及び損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	鋼構造物 製造事業	不動産 賃貸事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	3,701	250	3,952	163	4,115		4,115
セグメント間の内部 売上高又は振替高				77	77	77	
計	3,701	250	3,952	240	4,192	77	4,115
セグメント利益 又は損失()	269	162	106	3	102	113	216

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、鋸螺釘類製造事業を含んでおりません。

2 調整額の「セグメント間の内部売上高又は振替高」には、セグメント間取引の消去額 77百万円及び「セグメント利益又は損失()」には、親会社本社の総務部門等管理部門に係る全社費用 113百万円等を含んでおります。

3 セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(金融商品関係)

金融商品の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(有価証券関係)

前連結会計年度末(平成23年3月31日)

その他有価証券

区分	取得原価(百万円)	連結貸借対照表 計上額(百万円)	差額(百万円)
株式	1,691	5,316	3,624
債券・国債	546	521	24
計	2,238	5,838	3,600

当第2四半期連結会計期間末(平成23年9月30日)

時価のあるその他有価証券が、企業集団の事業の運営において重要なものとなっており、かつ、当該有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額に前連結会計年度の末日に比べて著しい変動が見られます。

その他有価証券

区分	取得原価(百万円)	四半期連結貸借対照表 計上額(百万円)	差額(百万円)
株式	1,694	4,360	2,666
債券・国債	537	516	21
計	2,232	4,877	2,644

(デリバティブ取引関係)

デリバティブ取引の四半期連結会計期間末の契約額等は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額()	12円68銭	4円07銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は 四半期純損失金額()(百万円)	310	99
普通株主に帰属しない金額		
普通株式に係る四半期純利益金額又は 普通株式に係る四半期純損失金額()(百万円)	310	99
普通株式の期中平均株式数(株)	24,446,073	24,441,410

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

当社は、先般の鋼橋上部工事の入札談合に関して、平成20年6月に独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構より損害賠償の請求を受け、当該請求内容を慎重に精査した結果、当社受注物件に対応する損害賠償請求のうち、一部の支払いを留保しております。これに伴い、当社は、留保分及び支払いに応じない事業会社の連帯債務の損害賠償を求めて東京高等裁判所に提訴されておりますが、現在係争中でありませ

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年11月10日

瀧上工業株式会社
取締役会 御中

五十鈴監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 名 倉 真 知 子 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 中 出 進 也 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている瀧上工業株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、瀧上工業株式会社及び連結子会社の平成23年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

強調事項

注記事項（四半期連結貸借対照表関係）偶発債務に記載されているとおり、会社は鋼橋上部工事の入札談合に関して独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構より損害賠償請求訴訟を提起されている。

当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以 上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。